

小学校 特別支援学級 3～5年 「自立活動」

授業のねらい

○適切なコミュニケーションを図りながら活動することができる。

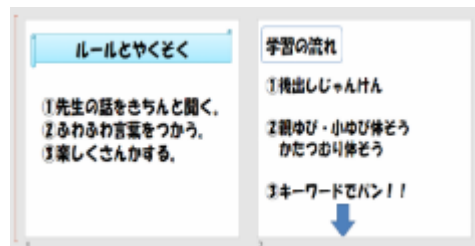
→自立活動を通して、以下のねらいの達成を目指す。

- ①児童一人一人の学びの保障 ②学習に対する意欲の維持・低下防止
- ③児童の心の安定・健康を保つ ④児童との親和的な関係の維持

「ハイブリッド授業」でのICT活用の工夫

○児童がハイブリッド授業の流れを理解することができるようにするため、タブレット端末を用いた双方向の授業構成を考え、指導計画を策定する。

○児童が視覚的に理解できるだけでなく、興味・関心を高めることができるようにするため、教員がプレゼンテーションソフトで作成した教材等（ルールと約束、学習の流れ、スリーヒントクイズ等）を画面共有機能で提示する。



↑ 【プレゼンテーション資料】

児童の様子

○授業では、しっかりと集中して活動できた児童や途中で集中力が切れてしまい、タブレット端末の画面で遊び始める児童、スリーヒントクイズのみ参加するなど、一部の活動だけ参加する児童もいるなど、様々な姿が見られた。

○一人での参加が難しい児童に教員を配置したことで、一部の活動に参加することができた。



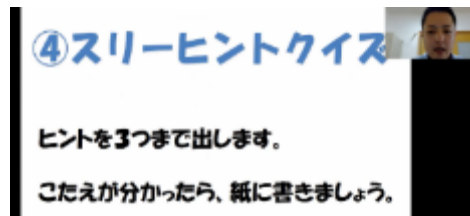
↑ 【授業中の児童の様子】

成果

○タブレット端末の操作や使用する上でのルールを守りながら、前向きに授業に参加して活動する児童の姿が見られた。

○授業の回数を重ねる中で、タブレット端末の使い方に慣れて、教員の支援がなくても参加できる児童が増えた。

○対面での授業より、オンラインを活用した授業の方が、児童同士の過剰反応が起きないため、授業の内容や活動によっては対面よりも効果があると感じた。



↑ 【授業配信の教員側の画面】

課題

○教員主導型の授業として構成しながらも、児童が主体となれる活動をどのように取り入れていくかが大切である。

○教員と児童、児童と児童のやりとりがなければ、ビデオ教材等と変わらないため、どのように双方向のやりとりを授業に取り入れていくのかを教員側が考えることが必要である。

○ハイブリッド授業を想定した際に、一人で活動できる児童にも保護者の見守りは必要であると感じた。